

## くすのき学習

- 1 目的 子供の興味関心のある問題から、体験活動を取り入れて追究し、自分の考えをもって、他者に伝えられるようにする。
- 2 計画 3・4年は35時間、5・6年は70時間(英語タイム 国際理解を含む)で、年間計画を作成する。

学年	くすのき学習		環境学習		合計
3年	郷土(学区の自然・公共施設・文化遺産など)	20時間	環境 プログラム を参照	15時間	35時間
4年	環境(川、ごみ、リサイクル)	20時間		15時間	35時間
5年	福祉(障がい者、高齢者など) 国際理解	55時間		15時間	70時間
6年	地球温暖化、国際理解	55時間		15時間	70時間

- 3 内容
- ・子供の興味関心に基づく学習
  - ・課題を見つけ、自ら学び、考え判断し、よりよく問題を解決する学習
  - ・学び方や考え方を身につけ、問題解決・探求活動に取り組み、自己の生き方を考える学習

(R01年度の活動内容、またはこれまでの実践)

	学習内容
第三学年	<p><b>テーマ「こちら細川情報局！」</b></p> <p>○主な内容 ・学区探検に行き、学区にあるものやことについて知る。 ・学区の歴史や伝説など調べたいことを決め、調べる方法を知り、調べたことをまとめ発表する。</p> <p>○ゲストティーチャー 鈴木武先生(元本校校長) ※学区のことに詳しい人</p> <p>○成果 ・学区のことに詳しい人の話を聞くことで興味関心を持ち、もっと知りたい調べたいと意欲が高まった。 ・グループで調べたことを発表することで、学区にあるものやことについて詳しく知ることができた。</p> <p>○課題 ・調べる方法が郷土読本中心になってしまった。学区に詳しい人にもっと話を聞けるとよかった。</p>
第四学年	<p><b>テーマ「3Rでゴミをへらそう」</b></p> <p>○主な内容 ・北斗川の生き物調査から、川の汚れの状況やその原因について考える。 ・家庭、学校、地域、岡崎市全体のごみの実態や問題点について調べる。 ・3Rの意味や意義を理解し、自分たちにできることを考えて話し合う。 ・学習したことや考えたことを工夫してまとめ、保護者や学区の方に発信する。</p> <p>○ゲストティーチャー 岡崎市環境保全課、ごみ対策課</p> <p>○成果 ・学区の身近な川を調査することで、環境問題を身近に感じる事ができた。 ・施設の見学や環境教室を通して、ごみ問題に対する危機感や実践・発信への意欲が高まった。</p> <p>○課題 ・切実感をもって活動に取り組むという意識を十分に高められなかった。</p>
第五学年	<p><b>テーマ「考えよう！だれもが住みやすい町」</b></p> <p>○主な内容 ・障がい者や高齢者の疑似体験、介助体験を通して、相手の立場を理解する。 ・障がい者や高齢者と共生するための工夫を調べ、自分たちにできることについて話し合う。</p> <p>○ゲストティーチャー 岡崎市社会福祉協議会から紹介された講師</p> <p>○成果 ・障がい者や高齢者と触れ合うことで、さまざまな人の思いや苦労を実感することができた。 ・情報の収集・整理を通して、自分たちにできることが明確となり、実践への意識が高まった。</p> <p>○課題 ・実際に福祉施設に足を運べるとよかった。</p>
第六学年	<p><b>テーマ「環境のためにできること」</b></p> <p>○主な内容 ・地球温暖化の現状について、世界と日本の生活と関連させて調べ理解する。 ・温暖化のメカニズムや防止への取組について調べ、自分たちにできることについて話し合う。</p> <p>○成果 ・二酸化炭素による実験を通して、温暖化のメカニズムをより深く理解することができた。 ・情報の収集・整理・発信を通して、温暖化防止に協力できることを啓発することができた。</p> <p>○課題 ・パリ協定についても調べたかったが、グループによって調査内容が異なり、全員で共有できなかった。</p>